

長崎県教職員バドミントン連盟  
理事長 大浦 恒一郎

昨年の愛知県大会の視察の後、あっという間に長崎大会が行われた感じがいたします。インターハイのバドミントン競技の日程がなかなか決まらないために、長崎大会の実施日が決められない。また、長崎県は8月9日が原爆記念日のため、小、中、高が登校日の関係上どうしてもその後には実施ができない状況でした。お盆という本当に忙しい時期に参加協力していた選手の皆様、派遣審判員の方々、大会関係者、又、長崎県の多くのお手伝いしていただいた審判、受付、運営業務の方々には感謝の言葉しかありません。皆さんの協力なくしては、大会は開かれない、人の有り難味を本当に感じた大会でありました。本当に本当にありがとうございました。

さて、成壮年団体男子ですが、1回戦の50代ダブルスが敗戦し、暗雲が立ち込め、暗い雰囲気にしてしまいました。40代ダブルスの東京ペアは今大会準優勝されており、強いペアと分かっていたため、厳しい試合が予想されておりました。しかし、今大会地元の開催ということもあり、日体大卒の片岡先生、小川先生の強力な助っ人が参加ということで、毎年出ておられる、古山先生、飯田先生、植田先生も気合が入り、見事に勝ち抜き、30代ダブルスも40代ペアで勝ち、なんとか1回戦を勝ち抜くことができました。2回戦も同じく50代ダブルスが敗戦したものの、40代、30代ダブルスが勝ち、準決勝に進むことができました。次は連覇を狙う愛知県が相手でした。ここから、小川先生が試合に間に合い30代も強力なパワーアップとなりました。愛知県の選手も相当手ごわく、接戦となりましたが、何とか30代ダブルスが勝ち、50代もその前の試合で疲れおられたようで、何とか今大会初勝利をあげ、初めての決勝進出となりました。決勝は毎年のように優勝候補になっている熊本県です。今回も50代が負けましたが、40代30代が勝ち、見事に優勝となりました。合同で練習することもなく、出来合いのペアで勝つことができる仲間のポテンシャルに感激した大会でした。来年もメンバーが揃えば、頑張りたいと思います。